

流域治水ワーキンググループ (WG) の成果について

令和4年3月23日

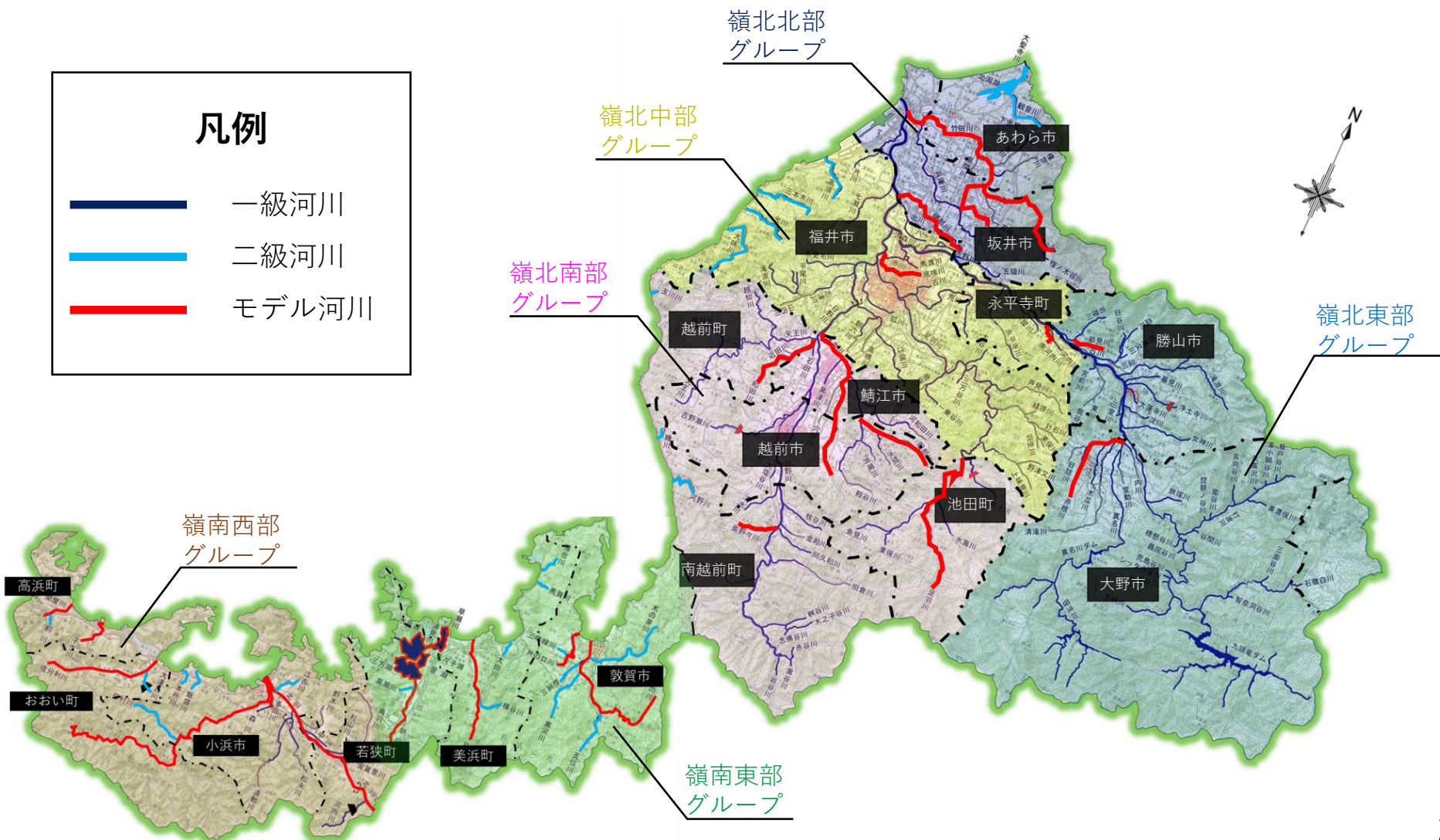
九頭竜川・北川流域治水協議会
福井県二級水系流域治水協議会

WGの区分けについて

- 各市町でモデル河川を選定し、それらを参考に県内で6つのワーキンググループ(WG)を設置。
- 国・県・市町等の関係機関・部局で具体的な流域治水対策についてWGを通じて検討。
- 各WGの検討内容を県全体で共有して取組みを加速化・深化。

凡例

- 一級河川
- 二級河川
- モデル河川



各WGのモデル河川一覧

- 全ての河川で流域治水対策を検討すると、煩雑で熟度が上がらないため、まずは、流域治水に取り組みたいモデル河川を市町で選定し、具体的な流域治水対策を検討。
- モデル河川で検討した流域治水に関するノウハウを他の河川にも反映させて流域治水を推進。

| グループ名 | 市町名 | 水系名 | 河川名 |
|----------|------|------|------------|
| 嶺北北部グループ | あわら市 | 九頭竜川 | 竹田川 |
| | 坂井市 | 九頭竜川 | 磯部川 |
| | | 九頭竜川 | 田島川 |
| 嶺北中部グループ | 福井市 | 九頭竜川 | 底喰川 |
| | 永平寺町 | 九頭竜川 | 南河内川 |
| 嶺北東部グループ | 大野市 | 九頭竜川 | 赤根川 |
| | 勝山市 | 九頭竜川 | 畝見川 |
| 嶺北南部グループ | 鯖江市 | 九頭竜川 | 浅水川（越前市含む） |
| | 越前市 | 九頭竜川 | 服部川 |
| | 池田町 | 九頭竜川 | 足羽川 |
| | 南越前町 | 九頭竜川 | 奥野々川 |
| | 越前町 | 九頭竜川 | 和田川 |

| グループ名 | 市町名 | 水系名 | 河川名 |
|----------|------|------|----------------|
| 嶺南東部グループ | 敦賀市 | 笙の川 | 笙の川 |
| | 敦賀市 | 井の口川 | 井の口川 |
| | 美浜町 | 耳川 | 耳川 |
| | 若狭町 | 早瀬川 | 鱒川・三方五湖（美浜町含む） |
| 嶺南西部グループ | 小浜市 | 北川 | 北川 |
| | | 南川 | 南川（おおい町含む） |
| | | 多田川 | 多田川 |
| | 高浜町 | 関屋川 | 関屋川 |
| | 高浜町 | 子生川 | 子生川 |
| | おおい町 | 佐分利川 | 佐分利川 |
| | 若狭町 | 北川 | 北川 |

: 令和3年度検討河川

赤文字 : 二級水系流プロ対象河川

- 令和3年度は、モデル河川に対して具体的な流域治水対策を検討するため、WGを3回開催。

| | 主 な 議 論 内 容 |
|--------------|--|
| 第一回ワーキンググループ | <ul style="list-style-type: none">・ モデル河川流域の河川整備状況について・ 流域治水対策を特に進めていくエリアについて |
| 第二回ワーキンググループ | <ul style="list-style-type: none">・ 流域治水対策のとりまとめについて・ 流域治水対策の現状と想定課題について |
| 第三回ワーキンググループ | <ul style="list-style-type: none">・ 令和3年度流域治水WGの成果について |

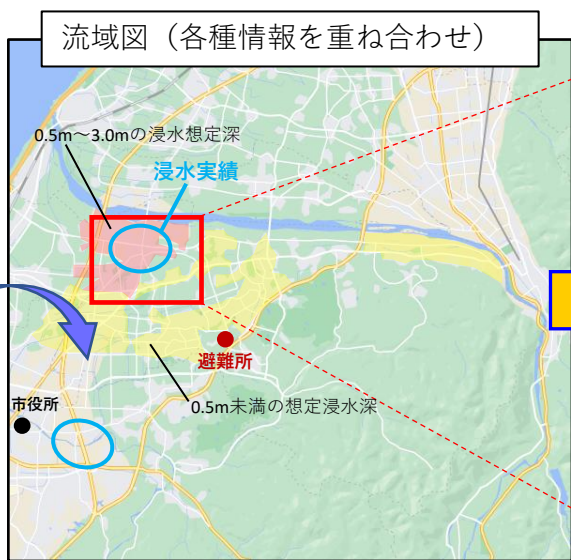
WGの進め方

- モデル河川流域において、土地利用状況、浸水履歴、洪水浸水想定、要望箇所等の情報を収集・整理したものを重ね合わせて、流域治水対策を特に進めていくエリアを選定。
- 特に進めていくエリアを中心に、具体的な流域治水対策を検討して情報や課題を整理。

WGの流れ（イメージ）

各種情報

- 治水要望
- 重要水防区域
- 居住誘導区域
- 浸水実績
- 公共施設場所
- 避難所
- ため池
- 洪水浸水想定区域
- ・
- ・



流域治水対策内容とりまとめ図



流域治水対策



流域治水対策内容の情報や課題を整理

| 流域治水対策内容 | 実施場所 | 面積 (m ²) | 想定貯留量 (m ³) | 現状 | 想定課題（該当するもの○をつける） | | | | |
|----------|-------|-------------------------|----------------------------|--------|-------------------|---------------|------------|------------|------|
| | | | | | 合意形成 | 関係者 (4者以上) | 関係者の 理解 | 事業費の 確保 | 設計方法 |
| 校庭貯留 | ○○小学校 | 12,000 | 4,000 | 未協議 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 公園貯留 | ★★公園 | 900 | 450 | 未協議 | | ○ | | ○ | ○ |
| 施設内貯留 | △□公民館 | — | 0.5 | 未協議 | | | ○ | ○ | |
| 田んぼダム | ◇◇区 | 40,000 | 4,000 | 地権者協議中 | ○ | | ○ | | |
| ・ | | | | | | | | | |
| ・ | | | | | | | | | |
| ・ | | | | | | | | | |

WG成果のまとめ

| グループ名 | R 3年度 モデル河川 | モデル河川流域の 土地利用状況 | WGで検討された主な流域治水対策 |
|-----------|---|--------------------|---|
| 嶺北北部G | 田島川 | 上流：市街地 下流：農地 | 校庭貯留（R 4年度実施予定）、公園貯留、田んぼダム、農業用排水施設更新 |
| 嶺北中部G | 底喰川 | 上流：市街地 下流：市街地 | 校庭貯留、公園貯留（R 4年度実施予定）、田んぼダム |
| 嶺北東部G | 赤根川 | 上流：山地・市街地 下流：農地 | 校庭貯留、公園貯留、施設内貯留（R 4年度実施予定）、調整池、田んぼダム |
| 嶺北南部G | 浅水川 | 上流：山地・農地 下流：市街地 | 校庭貯留、公園貯留、田んぼダム（R 4年度実施予定）、ポンプ場更新 |
| 嶺南東部G | 笹の川、井の口川、鱒川 他 | 上流：山地 下流：市街地 | 校庭貯留、公園貯留、ポンプ場更新、田んぼダム、ため池の事前放流、雨水幹線整備（R 4年度実施予定） |
| 嶺南西部G | 北川、南川、多田川 | 上流：山地・農地 下流：市街地 | 校庭貯留、公園貯留、田んぼダム |
| 総括 | <ul style="list-style-type: none"> 集水域では、山地や農地を活用して、河川への流入量を軽減させる対策 氾濫域では、学校や公園など既存施設を活用して、浸水被害を軽減させる対策 | | |

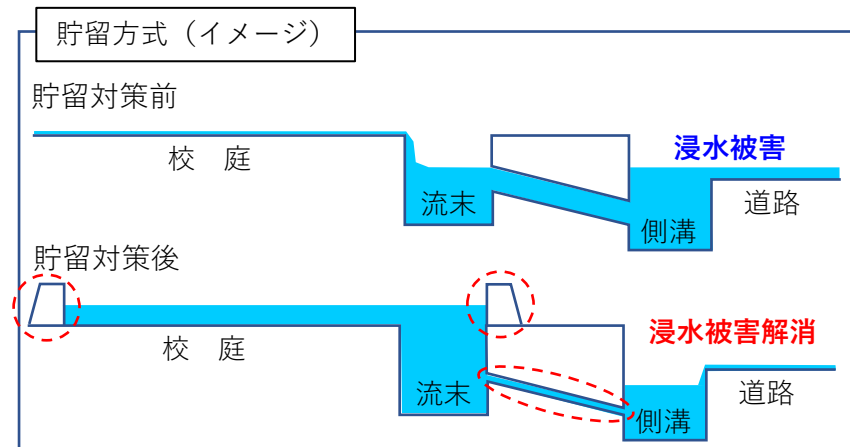
今後の展開

- ・ 上流域の田畑・山地での効果的な貯留方法についてさらに議論を深め、実行に移していく。
- ・ 氾濫域では、特に浸水が頻発する地域での対策を進めて被害軽減を図る。
- ・ これらの効果を発信して地域の理解を得ることで、県全体に流域治水対策を広めていく。

校庭貯留（福井県）

事業概要

- ・ 場所
県立丸岡高校 定時制（丸岡町内田）
- ・ 背景
丸岡町市街地（丸岡高校 定時制も含む）で浸水被害が頻発している。
その解決に向けて、県・市・地元による総合治水対策協議会が設置されている。
- ・ 関係者協議状況
県教育政策課および学校関係者等と協議中
- ・ 貯留量、貯留方法
今後の設計業務を通じて学校関係者と協議しながら決定していく。
- ・ 事業年度
令和4年度（緊急自償活用） 予定



公園貯留（福井市）

事業概要

- ・ 場所
若草公園（福井市西開発2丁目）
- ・ 背景
浸水が頻発しているエリアであり、地元から改善要望が上がっている。
- ・ 貯留量
約 1,500 m³
- ・ 地元協議状況
令和3年度から開発連合会等と協議中
- ・ 貯留方法
地元協議をして決定。費用が掛かるが、公園としての機能は工事前後で変わらない「地下貯留方式」を採用した。
- ・ 事業年度
令和4年度（緊急自償活用）予定



雨水貯留タンクの設置（大野市）

概要

・背景

大野市水循環基本計画に基づき、流域治水の推進及び水資源の適切な利用を促進する。

・実施内容

幅広い世代の市民が訪れる公共施設に雨水貯留タンクの設置と効果のPRにより「流域治水」への理解と機運を醸成する

・実施箇所

大野市内にある公民館9箇所

・事業年度

令和4年度予定

令和4年度設置予定箇所

大野公民館（学びの里めいりん）

下庄公民館 乾側公民館

小山公民館 上庄公民館

富田公民館 阪谷公民館

五箇公民館 和泉公民館

農具等の清掃



非常時への備え



下庄公民館（R4年度設置箇所）



田んぼダム（鯖江市）

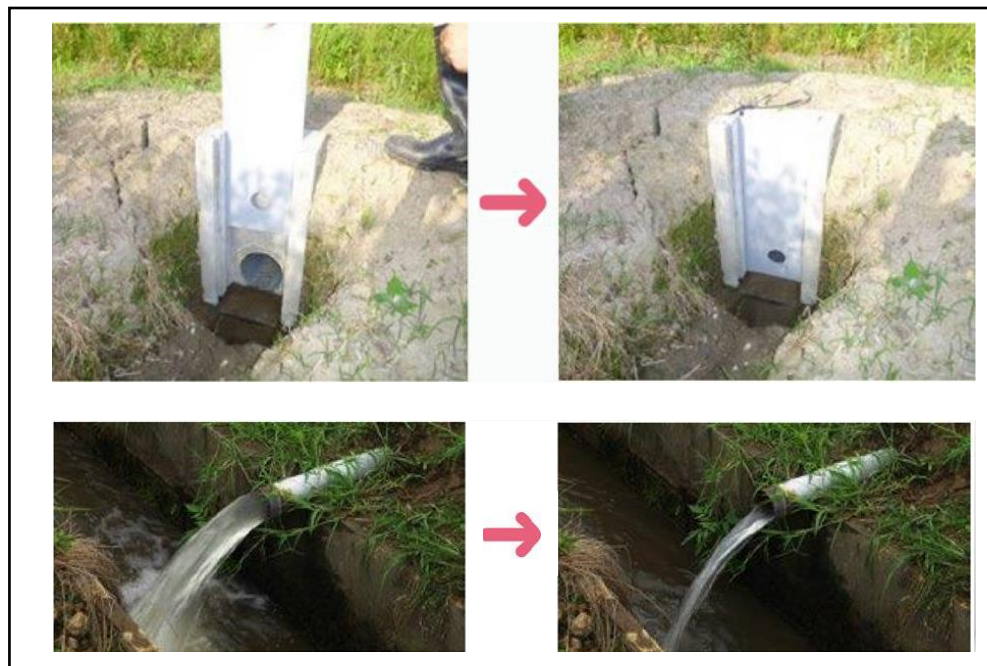
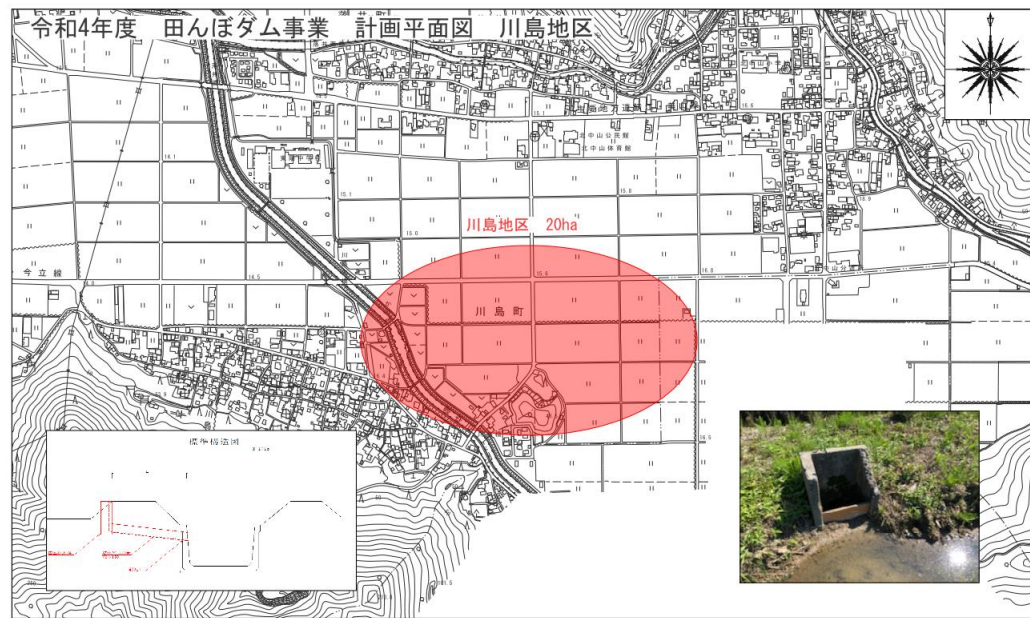
事業概要

- ・ 背景
福井豪雨を受け、平成20年に「総合治水基本計画」を策定して流域対策にも取り組んでおり、平成24年度から田んぼダム事業に着手した。

- ・ 貯留方法
排水柵に調整板を設置して、田んぼに一時的に雨水を貯留する。

- ・ 整備状況
地元協議の整った地区から順次整備を進め、これまでに約1,400haの田んぼダムを整備した。

- ・ 令和4年度整備箇所
浅水川流域では、川島地区（約20ha）を整備予定



開発行為における雨水流出抑制対策（鯖江市）

概要

・背景

平成21年に「鯖江市開発事業等に関する指導要綱」を改訂し、雨水流出抑制対策の条文を追加した。

・対象、内容

工場や店舗の新設等の開発行為に対して、仮に調整池の設置が不要となった場合においても、雨水貯留浸透施設の設置をお願いする。

・貯留方法、貯留量

無償協力であるため指定はしていない
(例) 駐車場兼用調整池、透水性舗装、緑地の造成など

鯖江市開発事業等に関する指導要綱

第10条

『事業者は、敷地の規模および形態に応じて雨水の河川等への流出を抑制するための施設を整備するよう努めなければならない。』

透水性舗装



駐車場兼用調整池(イメージ)



実施状況

| 年度 | 件数 | 対策内容 |
|-----|----|---|
| H29 | 2 | 透水性舗装 1,585m ² |
| H30 | 1 | 透水性舗装 2,310m ² |
| R1 | 1 | 緑地造成 162m ² |
| R2 | 2 | 駐車場兼用調整池 108m ³ 透水性舗装 2,670m ² |
| R3 | 1 | 駐車場兼用調整池 140m ³ |

雨水幹線整備（敦賀市）

概要

- ・ 場所
敦賀市 呉羽町 地係
- ・ 背景
敦賀市松原排水区域内において内水被害が発生しており、住民から対策要望を受けていた。
- ・ 内容
内水の浸水防除のため敦賀市公共下水道事業計画に基づき雨水幹線を整備する。
計画降雨量：40.2mm/h（7年確率）
計画断面：2600×1600～1500×1500
- ・ 事業年度
令和2年度～令和7年度

- ・ 事業計画
令和2年度 L=80.0m
令和3年度 L=100.0m（施工中）
令和4年度 L=120.0m（予定）
令和5年度
～令和7年度 L=360.0m（予定）

施工状況



過去浸水状況



完了箇所



内水ハザードマップの更新（小浜市）

概要

対象区域: 公共下水道区域

・背景

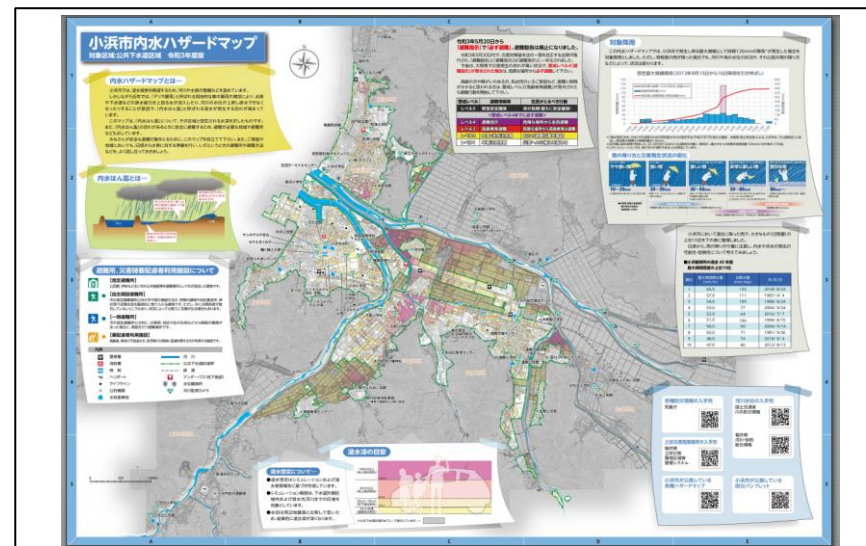
近年では、「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的な集中豪雨の増加により、水路や下水道などの排水能力を上回る雨が頻発していることから、「内水はん濫」による浸水情報や避難所等を、住民に安全な避難行動を行うために、事前に提供する。

・内容

水防法第14条に定める想定最大規模に対する浸水シミュレーションの見直し業務であり、このマップは、「内水はん濫」について、その区域と想定される水深を示している。

・事業年度

令和3年度



過去の浸水被害（2013年9月15、16日）



小浜市 千種 地帯



小浜市 大手町 地帯

内水ハザードマップの周知について

- ・小浜市ホームページ(R4.5月頃)
- ・区長、公民館に配布

流域治水対策の今後の流れ

■ 令和4年度の流域治水の取組（案）

- ・ 各市町・各機関での対策実施、次年度予算要求
- ・ 4月～9月、10～3月で1河川の具体的検討（各WG）
- ・ 啓発のためのパンフレット作成と配布
- ・ 県内でのパネル展等のイベント開催
- ・ 県での試験施工（校庭貯留）の実施と事例集作成

| 取組 | 実施主体 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度以降 |
|----------|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 具体的取組の検討 | 各機関（WG） | 半年毎に1河川を検討 | | 各機関で独自に検討・実施 | |
| 取組の実施 | 各市町 | 対策の実施 次年度予算要求 | 対策の実施 次年度予算要求 | 対策の実施 次年度予算要求 | 対策の実施 次年度予算要求 |
| 支援 | 国・県 | 校庭貯留モデル施工 | モデル施工の検討 | 各対策事例集の作成・共有 | 市町支援制度の検討 |
| 啓発活動 | 国・県・市町 | パンフレット作成 | 出前講座、イベント等の開催 | | |